

# トップメッセージと経営方針

## ご挨拶

### はじめに

平素より、損保ジャパンひまわり生命をお引き立て賜り、厚く御礼申し上げます。

このたびの東日本大震災および長野県北部を震源とする地震により被害を受けられた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。1日も早く復興されるよう、お祈り申し上げます。

当社は被災されたお客さまに1日も早く保険金等をお届けし、安心をご提供することこそが、保険会社としての使命と考えております。今後も被災された皆さまや被災地の復旧に少しでもお役に立てるよう、全社を挙げて取り組んでまいります。

### 会社設立30周年

当社は損保ジャングループにおける生命保険事業の中核企業であり、また、2010年4月に株式会社損害保険ジャパンと日本興亜損害保険株式会社が共同持株会社として「NKSJホールディングス株式会社」を設立したことにより誕生したNKSJグループの一員です。当社は1981年7月7日、米国シグナグループの日本法人として誕生してから、数多くのお客さまのご支持をいただき、成長を遂げてまいりましたが、2001年に株式会社損害保険ジャパンの前身である安田火災海上保険株式会社の完全子会社となってからその成長を加速化させ、現在に至っております。

そして、当社は本年7月7日、会社設立30周年

を迎えました。これもひとえに皆さまのご支援、ご愛顧の賜物と心から感謝しております。

折しもこの30周年という節目の年である今年10月1日に、当社は関係当局の認可等を前提として日本興亜生命保険株式会社と合併し、「NKSJひまわり生命保険株式会社」として新たなスタートを切ります。今後も引き続きご支援、ご愛顧をお願いするとともに、皆さま方のご期待にお応えできますよう、最高品質の安心とサービスを提供してまいります。

### 2010年度を振り返って

2010年度の日本経済は、上半期こそ緩やかな景気回復が続いたものの、下半期には輸出の頭打ちや政策による消費押し上げ効果の一巡から景気は踊り場的な調整局面を迎えました。また、年度末には東日本大震災の発生により、景気の先行きに対する不透明感が高まっています。

また、生命保険業界は少子高齢化の影響等による新契約高の伸び悩み、新規参入会社の増加や販売チャネルの多様化による競争激化等、厳しい経営環境に置かれています。

そのような環境下にありましたが、昨年11月に発売したがん保険「勇気のお守り」や医療保険「健康のお守り」が好調に推移したことなどにより、新契約件数（個人保険+個人年金保険の合計）は前年度比9.9%増となりました。新契約高（同）も収入保障保険「家族のお守り」の販売の伸びなどにより、前年度比5.7%増となりました。

がん保険「勇気のお守り」は、QOL (Quality of Life) を重視したがん治療に適した保険をコンセプトに開発した商品です。QOLは「生活の質」と訳され、QOLを重視した治療は、医師の判断のもと、「仕事をしながら入院することなく通院で治療をしたい」といったがん患者のご希望にお応えできるようがんによる通院費用を1年間120日分まで、通算ではお支払い日数の制限なく保障する「がん外来治療給付金」を導入しました。

当社は、大切なお客さまをお守りするという使命感を持ち、お客さまニーズの適切な喚起、ニーズに適合した商品・サービスの提供を行うことが生命保険会社としての責務であると考えています。

#### 日本興亜生命との合併と2011年度の取組み

先ほど申し上げましたとおり、当社は2011年10月1日、日本興亜生命と合併し、NKSJひまわり生命として新たな門出を迎えます。

NKSJひまわり生命は、同日付でNKSJホールディングス株式会社の直接子会社となり、NKSJグループの生命保険事業を担う戦略的子会社となります。

NKSJひまわり生命は「お客さま視点で全ての価値判断を行い、お客さまに最高品質の安心とサービスをご提供し、社会に貢献すること」を経営ビジョンの中心に据え、お客さまからこれまで以上に選ばれる会社になることを目指します。そのため、2011年度上期は「お客さま視点

に基づく業務品質の向上」を経営基本方針の柱として掲げ、これまでの取組みを加速化しています。すべての社員がお客さま視点に基づき、ひとつひとつの業務の意義を考え行動する企業風土を醸成し、高品質かつ均質なサービスを全社一体となって提供してまいります。

皆さまには、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



2011年7月

取締役社長 松崎 敏夫